

2. ヒメジャコの生息状況調査

方法

保護水面区域内に図-2に示す1本の長さが100mの調査測線 (Transect) を15本設けた。その線上2m中にわたって潜水観察を行ない、生息個体数を調べた。

尚、調査は昭和56年(1981年)10月13~19日の間に実施した。

結果

各調査測線上の結果は表-1に示した。

湾奥から湾央 (Tr.1~9) では Tr.1 を除いてヒメジャコはみられなかった。そして Tr.1 の生息個体も 8.2~12.0cm の大型個体であった。しかしながら、湾口から磯原部側 (Tr.10~15) においては、その生息数は増加すると共に穿孔生息長径値の測定値巾も広がった。最多生息場所は Tr.14 で、その数は 280 個体であった。

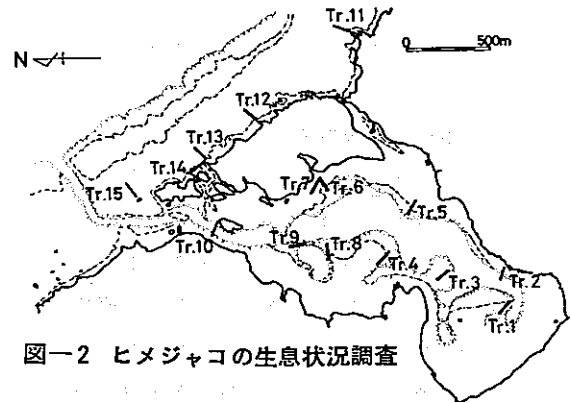


図-2 ヒメジャコの生息状況調査

表1 ヒメジャコの生息状況

調査測線番	生息数	大きさ(cm)	調査測線番	生息数	大きさ(cm)	調査測線番	生息数	大きさ(cm)
1	3	8.2-12.0(n=3)	6	0	—	11	27	1.0-8.55(n=14)
2	0	—	7	0	—	12	72	1.95-9.95(n=20)
3	0	—	8	0	—	13	139	4.00-11.95(n=25)
4	0	—	9	0	—	14	280	1.35-10.35(n=21)
5	0	—	10	21	2.7-10.7(n=13)	15	81	1.95-9.20(n=20)

※：ヒメジャコの穿孔生息長径長

生息数は Tr.11 (吉原) 側よりも八重山支場に近い Tr.15 (川平) 側の方が多傾向にあった。これは残念ながら人為的な要因も大きく影響していると思われる。

ヒメジャコの穿孔生息場所は、琉球石灰岩や塊状のハマサソゴの死んだ部分に多くみられた。調査測線上ではそれらの基質の存在する岸寄りにヒメジャコは多くみられる傾向にあった。また、ヒメジャコにとって湾内は生息条件が悪いのではないかと推察される。

今回の調査結果と前回 (1975年) のそれとを比較すると保護水面設定効果はあったと言える。